

難波田城だより

—難波田城公園・難波田城資料館ニュース—

平成 25年 6月 1日 発行
編集・発行/富士見市立難波田城資料館
2013年 夏号 (通号56号)
NEWS from NANBATAJO

新島八重のふるさと会津鶴ヶ城



現在の鶴ヶ城

慶応4年8月23日(旧暦)(1868年10月8日)、新政府軍が会津に侵入、八重はスペンサー銃を携えて城内に駆け込みました。八重22才の時でした。籠城1ヶ月、9月22日新政府軍の猛攻の前に城主松平容保は開城、中村半次郎が入城し、会津戦争は終了しました。鶴ヶ城は廃城となり、明治7年(1874)に石垣を残し取り壊されました。その後、城の再興の機運が盛り上がり、鶴ヶ城天守閣は昭和40年(1965)9月に再建されました。平成23年春、天守閣の瓦を赤瓦にリニューアルし、幕末時代の姿に戻りました。

鶴ヶ城、そして会津の地は多くの武将によって治められてきました。鶴ヶ城の前身は、鎌倉御家人佐原氏の後裔、葦名直盛により作られた黒川城とも呼ばれた館です。1589年、伊達政宗が葦名氏を滅ぼし入城、しかし豊臣秀吉の命により一年足らずで米沢へ移ることとなります。それに代わり、1590年織田信長の家臣であった蒲生氏郷が入り、城下町の整備、城の改築を行いました。その結果、城は7層の天守閣などを持つ大規模なものとなり、城は鶴ヶ城と名付けられます(1593)。その後、後継ぎの問題などから蒲生氏は秀吉の命により宇都宮へ減封されます。代わって1598年上杉景勝が会津に入ります。景勝は

市民学芸員 小林 豊



鶴ヶ城全体図

秀吉の信を得て、出羽、佐渡を加え120万石の大名になります。秀吉の死後、景勝は家康と対立しますが、関ヶ原の合戦の後、軍門に降り1601年に徳川家康により米沢30万石に減封されます。それにともない、再び蒲生氏が鶴ヶ城に入城します。1627年蒲生氏が途絶えたため、四国松山から加藤嘉明が入り、大地震によって被害を受けていた天守閣を五層に改装、これが近年再建された城の姿の原型になっています。しかし、嘉明の子、明成は自藩の重臣と対立、また無断に城を改築したことも幕府に咎められ、領地を召上げられました。そして1643年、三代将軍家光の弟、保科正之が最上から23万石で転封。1696年より松平姓と葵のご紋を用い徳川親藩になり、この体制が幕末まで続きます。その子孫の松平容保は1862年、京都守護職に任ぜられ幕末の歴史を背負うことになりました。

鶴ヶ城址には詩人土井晩翠直筆の「荒城の月」碑が残されています。荒廃した城址を訪れ作詞のきっかけを得たといわれています。

また八重は城を去る際に「明日よりは何処の誰が眺むらむ馴れし御城に残る月影」という歌を城壁に刻んだといわれています。

私は会津の喜多方で生まれ育ちました。地震のあとの風評被害もありますが、温泉、自然の豊かなところです。是非会津を訪ねてください。

(写真・図提供：会津若松市観光公社)

こんなお宝がありました 資料館編

田舟は古代から

私が田舟を知ったのは、四十六年前のことでした。水郷の潮来^{いたこ}、新潟の阿賀野川河口地帯、木曾三川河口周辺地区、琵琶湖の近江地区などでした。いずれも腰まで浸かる深田泥田の作業を見た時は、農業者の土地に対しての執念を感じた覚えがあります。

土地改良が進み、今では田舟の利用は、ほとんど見ることができず、各地の地域資料館の片隅にひっそりと置かれています。

『農具便利論』（大蔵永常・一八二二）には、「深田の稲を乗せて引、または土を乗せる具」と記されています。さらにさかのぼると、弥生時代の遺跡からも厚板を利用した田舟が出土しています。貝塚・住居跡・古墳などと同じ様に歴史の生き証人として、古代の生活を伝えていきます。昔の富士見市で使われた田舟は、長屋門展示室に展示されています。（世羅 陽一郎）



田舟(当館蔵)



田舟を使った稲刈り（水子地区 昭和 60 年頃）

水はけの悪い田、湿田などで用いる。刈り取った稲が水でぬれないために使う。あぜまで運ぶのに便利のように、底がやや湾曲している

おもしろ・なつかし体験④

パラシュートづくり

このコーナーは、難波田城公園での体験事業やイベントの

紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

自分で作った作品が、期待通りにできあがった時の喜びは、大人も子供も共通のことと思います。4月13日のちょこっと体験は、『パラシュートづくり』。風は少々強かったものの、晴天のもと、幼稚園児から小学校低学年の子供達、そして同伴の父母、爺ちゃん、婆ちゃん達が大勢参加しました。市民学芸員を囲んでの製作は大にぎわい。

〈材料〉

ビニールの布（完成品直径 25 cm）

タコ糸 8 本（45 cm）

ムクロジの実 1 つ（オモリ用）



完成間近。オモリの位置を調整中 成功！傘が開き風にのりました

〈作り方〉

- ①直径 25 cm の八角形ができるように紙型に合わせてビニールの布を切断。
- ②タコ糸を八角形の先端にテープで固定。
- ③オモリを糸に巻きつけテープで固定。

完成しましたが、小さな子どもたちは空高くに投げられません。でも一生懸命投げています。地面近くで傘が開くと、風に運ばれ横へと流れていきました。大人たちも拍手拍手です。取材に来た J:COM のカメラマンも子供たちを追いかけたり、インタビューをしたりと大忙しでした。（横田康男）

人の創った道具★人の使った道具

キリシタン禁止の高札

高札とは？

高札は法令等を板に墨で記し、掲示したものです。奈良時代末期から見られますが、江戸時代に全盛期を迎えました。その役割は、法の周知徹底・順法精神の涵養・告訴の奨励等でした。幕府が出した「公儀高札」と大名・旗本独自の「自分高札」に大きく分けられ、幕府が出した忠孝札、火付禁止札、切支丹札、毒薬札、駄賃定札の5枚は大高札とよばれ、幕府領だけでなく、大名・旗本領でも重視されました。橋詰、道の分岐点、渡船場等人が多く集まる場所に高札を掲げる高札場が設けられました。高札場を勝手に移動させることや、高札の字が薄くなった時に勝手に書き直すこと等は許されませんでした。



鶴馬村絵図に描かれた高札場 道の分岐点に設けられていました(現在の富士見台中学校下三つ又付近)。

キリスト教禁教と信者の告訴奨励

慶長17年(1612)、幕府は直轄領に教会の破壊とキリスト教の布教禁止を命じた禁教令を出しました。翌年、禁教令を全国に広げ、さらに、パテレンの追放を命じました。寛永初期(1620年代)からキリスト教徒を発見するために踏み絵が使用され、寛永17年(1640)にキリスト教徒でないことを寺に証明させる宗門改も始められました。

常設展示室に展示されている右の高札は、キリスト教禁教の流れを受けて天和2年(1682)に出された「公儀高札」です。水子村の上組の領主であった旗本が掲げたため、年号(天和二年五月日)の後に「右の内容が命じられたので領内の者たちは守らなければならない」と記されています。この高札には以下のような内容が記されています。

キリスト教は長年にわたって禁止されている。万一不審な者がいたら申し出なさい。ご褒美として、ばてれん(カトリックの司祭)を訴え出た者には銀500枚、いるまん(司祭でない修道士)・立かえり者(一度キリスト教の信仰を捨てたが再び信者となった者)は銀300枚、同宿並びに宗

このコーナーでは、当館所蔵の資料を紹介します。今では使われなくなった道具からわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

門(キリスト教の信者や仲間)は銀100枚をお与えになる(※銀1枚43匁として銀100枚は約70両。金1両は約10万円)。仮に信者や仲間に関することであっても、訴えた内容によっては銀500枚をお与えになる。隠し置いて他から発覚したら、その所の名主をはじめ五人組の者まで一族と共に厳罰に処される。

火付けをした者を捕えたり、居場所を知らせたりした場合の褒美(銀30枚)と比べ、キリスト教徒を訴え出た者には多くの褒美が与えられました。キリスト教を信仰することを禁止するだけでなく、多額の褒美を出すことによって、信者の告訴を促し、禁教を徹底しようとしたことがうかがえます。

高札にはそれを出した者の名前が記されましたが、展示されている高札では削られています(写真の○部分)。領主等が変わると、ここを削ったり、板を張ったりして書き直した例があります。水子村は元禄10年(1697)に旗本領から川越藩領へ、宝永元年(1704)に川越藩主が柳沢吉保から秋元喬朝に替わりました。この領主の変更が、高札が削られている理由かもしれません。(山野健一)



田中薫家蔵(当館寄託)

【読み下し文】

きりしたん宗門は、累年御制禁たり、自然不審なる者これ有らば申し出づべし、御ほうびとして
 ばてれんの訴人 銀五百枚
 いるまんの訴人 銀三百枚
 立かへり者の訴人 同断
 同宿並びに宗門の訴人 銀百枚
 右の通りこれを下さるべし、たとい同宿宗門の内たりとい共、訴人に出る品により銀五百枚これを下さるべし、かくし置き他所よりあらはるるに於いては、その所の名主五人組迄一類共に厳科処せらるべきもの也、仍て下知件の如し
 天和二年五月日
 右の趣仰せ出され候間、領内の輩相守るべきもの也

夏のイベント予定

●ゆかた着付け教室

今年の夏は浴衣ゆかたを着こなし、お祭りなどへ出かけてみませんか。本教室では、着付けといくつかの帯結びを教わります。

日時 6月22日(土)午前10時～午後3時
(午前のみも可)

対象 中学生以上

定員 15人(申込順)

参加費 無料

指導 和道文化着装協会

申込み 直接または電話で受付。

*詳細は広報ふじみ6月号をご覧ください。



●じゃがいも掘り体験

日時 6月23日(日) 午前10時～正午

場所 旧金子家住宅前(畑は公園の隣り)

定員 30組(申込順)

参加費 1組1,000円

持ち物 持ち帰り用の袋、シャベル、農作業ができる服装・靴

主催 難波田城公園活用推進協議会

申込み 6月1日(土)午前9時から直接または電話で受付。

●竹かご教室

手付き花かご(右写真)を作ります。

日時 6月29日(土)

午前9時30分～午後4時

定員 10人(初参加者優先
申込順)

参加費 1,000円(材料費)

持ち物 昼食、雑巾、エプロン(前掛け)

指導 資料館友の会竹かご部会

申込み 6月1日(土)午前9時から直接または電話で受付。締切は7日(金)。



●夏休み古民家宿泊体験

市内在住の小学4～6年生を対象に開催します。

開催日 8月3日(土)～4日(日)

*詳細は広報ふじみ7月号をご覧ください。



旧金子家住宅
(芳賀氏画)

●藍の生葉染め

絹のストールを染めます。

日時 7月27日(土) 午前9時半～正午

定員 8人(初参加優先、申込順)

参加費 2,000円(材料費、事前集金)

持ち物 エプロン、ゴム手袋、ぬれても良い履物

指導 河野悦子さん

申込み 7月1日(日)午前9時から直接または電話で受付。

*詳細は広報ふじみ7月号をご覧ください。

●早朝の蓮が見学できます

「古代蓮の里」から分けていただいた行田蓮が7月に見ごろを迎えます。朝早く開き、昼には閉じてしまう蓮の花。その開花直後の姿を見られるよう連休に合わせて早朝開館します。

とき 7月13日(土)～15(祝)の3日間。

午前6時に開園します。

*資料館、古民家は通常どおり9時開館です。

●難波田城花ごよみ

スイレン(5～9月)、アジサイ(6月)、ハナショウブ(6月)、クチナシ(6月)、ハス(7月)、サルスベリ(7月)、ハギ(8月)



●ちよっ蔵市

(難波田城公園活用推進協議会主催)

6月23日(日) ふかしいも

7月21日(日) 流しそうめん

8月はお休みです

※時間は午前11時から。売り切れ次第終了です。



編集・発行/富士見市立難波田城資料館

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1 Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

富士見市役所公式ホームページ <http://www.city.fujimi.saitama.jp>

◆資料館休館日/月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間/午前9時～午後5時

◇公園休園日/なし 開園時間/午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)